

北京での留学は不安もたくさんありましたが、実際に学生生活を送る中で日々が楽しく充実したものになっていきました。その中でたくさんの思い出もできました。

私の留学での一番の思い出はルームメイトのネパール人、プラナヤと過ごした日々です。私は留学する以前まったく中国語を話せない状態で留学に臨みました。彼と会う前は外国の人と一緒に暮らすことに不安を感じていて、仲良くなれても表面上だけのものだろうと思っていました。彼と初めて会った時は予想通り会話することができなかったのですが、英語を使って筆談を試みると彼は快く応じてくれ私達の交流が始まりました。彼が6歳年上であることを知り、仲が悪くならないようにと緊張を感じ続けながら過ごした生活は彼の誕生日会を開いた日から変わり始めました。誕生日の時私は彼と交流のある日本人の人に協力してもらい大勢で食事会を開き、寄せ書きなどのプレゼントを渡して共に誕生日を祝福しました。その時彼は「カトウはいつもよそよそしく私のことを嫌っていると思っていた。だから今日祝ってくれて君の気持ちを知ることが出来たととても嬉しい。」と打ち明けてくれました。私のこの態度が逆に彼に悪いように働いたのだと知り、私も胸の内を話してから、彼と本当の意味で友達になれたと思いました。時間割が合う日はいつも定番の朝ごはんを二人で食べ歩きながら一緒に登校して、授業から帰ったらその日習った文法や単語を使って会話することで復習し、ベランダで涼みながら色んなことを話し合うのが日課でした。留学後中国語の上達を感じる事が出来たのは彼のおかげだったのだと、留学生生活を振り返ってみて実感しました。日本の良いところを話す内に彼は日本に興味をもってくれて、将来日本語を勉強して日本で働いて住みたいと語ってくれました。それは経済的な理由もあったのですが、なによりも私の育った国をこの身で感じたいからだと話してくれた時は感涙しました。彼は今ネパールで日本語を勉強し、たまに電話することでお互いに日本語・中国語の勉強をしています。留学生活で貴重な体験をいくつもしてきましたが、なによりも貴重なものはプラナヤという友人ができたことだと思っています。

最後に私が後輩に伝えたいのは留学というものは自分を良くも悪くも成長することができるということです。留学する以前、私は積極的には行動しますが心配性で内心はいつも不安がある状態でした。しかしルームメイトと仲良くなれたことを経て、何事もなんとか出来ると前向きに考えられるようになりました。悪く言えばより楽観的になったとも言えますが、これが自分の中で大きく成長したところだと思っています。ですから私は来年派遣留学をする後輩たちに色んな経験をして欲しいと思います。